

あきれたあきれた大作戦



走り出したらとまらない!
笑い出したらもうとまらない!!

金は欲しい、命は惜しい。ニューヨークからホンジュラス、あきれた歯医者とCIAが激突・爆笑・大混乱!!

ピーター・フォーク、アラン・アーキン主演「THE IN-LAWS」音楽＝ジョン・モリス 製作総指揮＝アラン・アーキン
脚本＝アンドリュー・バークマン 製作＝アーサー・ヒラー、ウィリアム・ザック・ハيلم テクニカラー＝ワーナー・ブラザース映画

THE IN-LAWS

From Warner Bros. & Warner Communications Company

あきかあきれた大作戦

THE IN LAWS

★ニューヨーク・ポスト紙も大絶賛

これこそコメディの原点といえる傑作である。

ピーター・フォークとアラン・アーキンの個性を生かした脚本の素晴らしさは見事としかいいようがない。ユーモアのセンスのある人なら、この映画ほど自然に爆笑させてくれる映画はないとわかるはずだ。

爆笑シーンのうらばなし★★★

★ニューヨークはマンハッタンで撮影されたのは、二人の殺し屋に追われるアーキンが31番街を走って逃げ、なぜか車体を傾けて走ってきたタクシー(フォークが乗っている)に飛び乗り、タクシーはそのまま通行人やハトを蹴散らしながらヘラルド・スクエアを突っ切っていくというシーン。もちろんその間殺し屋たちは銃をぶっ放しながら追ってくるのだが、映画の撮影に慣れきったニューヨークっ子たちは、ほとんど無関心。しかしけれども、3台のパトローカーが駆けつけ、マシンガンを持った男たちの車を警官隊が取り囲んだ時には、その迫力に感心して大きな拍手を送った。ところがこれは、映画とは関係のない本物の事件だったのである。やはりニューヨークは物騒な街だ。

★ピーター・フォークはこの映画の中で中国語をしゃべる。二人の中国人パイロットと話をするシーンでだが、この二人を先生にして一生けん命練習しただけあって、なかなかの出来。「こういうケタはずれでクレージーな役だからこそ、中国語をしゃべるなら、ちゃんと、しゃべるべきだと思った」とフォークは言っているが、こういう細かい努力を惜しまないのはさすがにプロとスタッフや共演者は感心することしきりだった。

1517

面白さ最高!

シェルドン・コーンベットは、物静かで保守的なニューヨークの歯医者。彼がエキサイトの高みに達するのは、患者の口の中にブリッジをかけたたり、注意深く穴を掘ったりする時位。

一方のビンズ・リカルドは、世界を股にかけ、行く先々で騒ぎを起し死体を作ってしまうという、謎に満ちたクレージーな男。自分ではCIAのエージェントだと主張するのだが……。

ともかくこの二人は、マンハッタンに始まって南米のとある共和国にまで及ぶ、危険がいっぱいの大国際追跡劇を共に演じることになる。それというのも、ビンズの息子とシェルドンの娘が結婚することになり、二人は、(親せき)になる運命と相成ったためだった。

シェルドンを演じるのはアラン・アーキン。ビンズはピーター・フォーク。まさに絶妙のキャストだが、そもそもこの映画はこの二人の役者のお互いに対する熱烈な賞讃の気持から生れ育ったと言える。

スタッフも超一流!

一緒にやろうという話が起った時、問題はまず脚本探しだった。適当な脚本はなかなか現われずにアーキンは、「ブレイジング・サドル」のアンソニー・バーグマンに、二人を頭においた脚本の執筆を依頼したのである。「彼の第一稿を読んだ時、これだと思ったよ。クレージーなCIAがカタブツの歯医者を通じて国際的な陰謀に巻き込んでしまうというアイデアには、ピタッとくるものがあった」とアーキンは語っている。自ら製作総指揮者となったアーキンが選んだ監督は「ふたりの天使」で、彼を「美人泥棒」でフォークを監督した、「ある愛の詩」の名匠アーサー・ヒラー。

共演者は、シェルドンの妻にナンシー・デュソールト、ビンズの妻に「エアポート77」のアーレン・ブロンカ、息子に「戦場」で注目されたマイケル・レムベック。「ミッドナイト・エクスプレス」の残酷な看守長で強烈な印象を残したポール・ローレンス・スミスらが脇を固めている。撮影はオール・ロケでという監督と主演者二人の意向でワシントンD・C、ニューヨーク、ニュージャージー、メキシコ、カリフォルニアの各地で行われた。撮影監督は「グッバイ・ガール」の名手デビッド・ウォルシュである。



新春第2弾ロードショウ

*特別ご鑑賞券¥1000(当二般¥1300の処) 発売中!

紀伊屋 新宿 ピカデリー (352) 1771

日・祝 10:15 平日 12:15 2:30 4:45 7:00